

令和四年度 全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

知事賞

激励賞

中央審査

佳作

「大切な資源を守るために」

新居浜市立中萩中学校

二年

水田

葵彩

みずた あおい

去年の夏、私の家の給湯器が突然壊れてしまいました。修理に三日かかると言われ、家族はパニック状態になってしまったことを覚えています。その時は、三日も家のお風呂に入れないなんて…と途方に暮れてしまいました。結局、親せきの家にお風呂を借りて、不便だなど文句を言いながら三日間を過ごしました。

そんなある日、テレビでSDGsについての番組を見ました。その中に、「安全な水とトイレを世界中に」という目標がありました。日本では、蛇口から透明な飲める水が出てくるのは当たり前で、安全ではないトイレを使ったことがないので、世界中ではどのくらいの人が困っているのだろうと思って、少し調べてみることにしました。

地球上にある水のうち、人間が飲み水や農業、工業に使える水は約〇・〇一%しかないそうです。さらに、世界の人口は増え続けているので、これから今までよりもっとたくさんの方が必要になってきます。

世界では人口の約二九%の人が安全な飲み水を飲むことができないそうです。開発途上国では、水道整備や浄水処理が整っておらず、先進国でも貧困のために安全な水を手に入れることができない人もたくさんいます。細菌や寄生虫が混じった不衛生な水を使うことで、下痢症の病気や感染症などにより毎年二〇〇万人以上の方が亡くなっています。不衛生な水だと分かっているにもかかわらず、病気になるかもしれないと知っていても、これを飲まなければ生きていけない。自分だったら、濁った水を目の前にして、飲むことはできるだろうか。そう考えると、胸が苦しくなりました。

また、水道が整備されていないことにより、子供が遠く離れた川や

池まで、一日に何往復も水を汲みに行かなければならないそうです。それにより、子供たちが学校に行けないため、教育を受けることができません。その次の世代でも同じような生活が続き、貧困という負のループから抜け出せなくなってしまうます。家族が生きていくために、水くみは大切な仕事ではあると思います。しかし、そのために子供の将来が奪われるのは悲しいことです。水くみをしている子供たちも、私たちと同じように、夢や、やりたい職業があるはずだと思います。教育の時間を確保できるように、一日でも早く、井戸などの環境の整備が整うことを願っています。

そして、今回私が調べた中で初めて出会ったのが「バーチャル・ウォーター(仮想水)」という言葉です。日本は海外から大量の食べ物を輸入しています。その食べ物は、大量の水を使って生産されています。そのことが結局、日本が大量の水を輸入しているのと同じなのではないかという考え方だそうです。日本が食べ物の三分の二を輸入に頼っていることで、外国の水問題をより難しくしているという事実もあります。豊富な水に恵まれている日本で、なるべく輸入に頼らず、自給自足で、食べ物を生産できる技術を考える必要があるのではないかと思います。

世界中の水の環境を調べていくうちに、たった三日間家のお風呂に入れないくらいで、不便だなと文句を言っていた自分がとても恥ずかしくなりました。日本は安全な水道水が使える、恵まれている国です。しかし、水は無限にあるわけではないので、まずは日々の生活の中で無駄遣いをしないよう、節水を心がけたいです。その他にも開発途上国に井戸を掘ったり、トイレを作ったりする活動をしている組織や団体があるそうなので、寄付などをしたり、ボランティアについて勉強したりしてみたいです。また、地球温暖化による気候変動により、洪水や渇水が頻繁に起こり、安全な水が失われています。温暖化を食い止めるために一人一人ができるのか、まずは身近な人と話し合いたいです。